でが行われた。勝ち残っていた県勢7校は、佐賀学園が6回戦、白石も5回戦で敗れ、上位進出は果たせなかった。その他の県勢は佐賀商が4回戦、伊万里と龍谷、佐賀農、鳥栖商がそれぞれ3

先鋒江口の1勝1分に続き、次鋒白水も引き分けて優勢に。中堅梅野が2人抜きして、快勝。

白石（不戦一）鞍手

中堅まで互角の争い。副将大串が巧みに攻めて2人抜き。相手大将とも引き分け、勝利した。

佐賀商（不戦一）近大付

先鋒、次鋒がともに引き

頂点へ再挑戦

佐賀商 2年ぶり甲子園

（上）

改革

猛打のチームカラー転換

8月2日開幕の第90回全国高校野球選手権大会に、県代表として佐賀商が出場する。2年ぶり15回目の夏の甲子園。県内最多出場回数を誇り、全国制覇の経験もある伝統校は、昨年、全国を制した佐賀北に続いて頂点へ再挑戦する。この夏に燃える佐賀商野球の力と技を紹介する。

■ミート心掛ける

「猛打には安定感がない」

昨秋の九州大会初戦。神村学園（鹿児島）の好投手を打ち崩せずに敗退して、森田剛史部長（当時）は痛感した。「県大会は猛打で倒したが、これでは通用しない」

取り入れたのが「バスター打法」。長打狙いで大きくなりがちなバットの軌道を小さくするため、バントの姿勢から打つことを徹底した。「ミートを心掛けるようになった」と選手たちは口をそろえる。昨年夏の大会で本塁打を放ったものの、打率は2割だった津田真輔選手は「大振りしなくなった」。今年は本塁打こそないが、3割を越える打率をマークした。チームとしても、今大会本塁打は0。しかし、1試合平均10安打を放つ「マシンガン打線」へ変ぼうした。

■4番にスクイズ

県大会決勝の鳥栖戦。3点差から1点詰め寄られた後の八回表、簡単に二死となった後の場面で、野中信太郎選手は2ストライクと追い込まれた後、6球粘って四球を選んだ。一塁に向かう野中選手に森田監督は「よし」と目で合図した。

「あの回3人で終わっていたら、相手に流れがいった」。試合の流れを相手にやらなかった四球は、森田監督のいう「待つ攻め」だった。

さらに、森田監督は1年秋から4番を打つ津田選手にもスクイズのサインを出すようになった。

「今までは考えられないサイン」と津田選手。しかし、森田監督は「1点ずつ確実にとり、その後、流れを相手にやらないのがうちの野球」。大味といわれた佐賀商野球が確実に変わった。

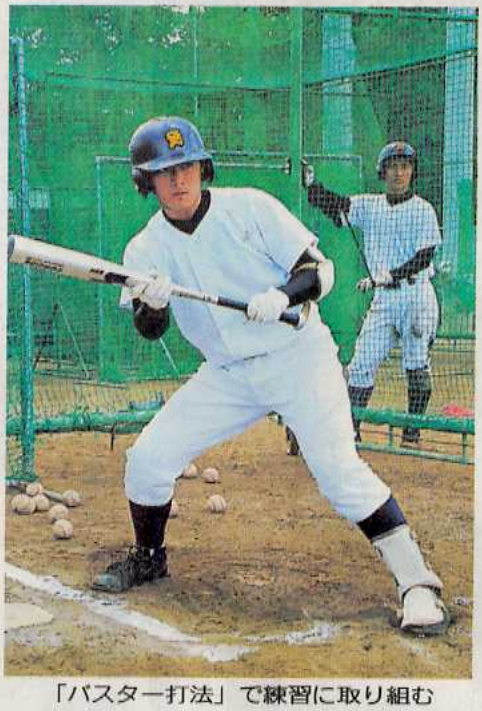
■秘密兵器で特訓

県大会準決勝前日の朝、佐賀商の横にある野球トレーニング場「ベースボール・アスリート」（佐賀市神野東）では、樺島賢吾選手らレギュラー陣が黙々と秘密兵器「ピッチャー再現マシン」に向かっていた。

マシンから放たれるのは、外角に鋭く曲がるスライダー。翌日対戦する伊万里農林のエース佐藤祐麻投手を想定していた。このマシンは、ジャイロ技研（大分市）が開発。米大リーグ・レッドソックス松坂大輔のスライダーも再現できるという代物で、県内には1台、全国にも7台しかない。「球の出どころ、球筋。忠実に再現できる」と同アスリートの坂下幹夫代表は話す。

「目が慣れていた。ジャイロ効果だ」。宿敵から適時打を放った樺島選手は白い歯を見せた。六回までに4点を奪い、佐藤投手を攻略し、事実上の決勝戦といわれた準決勝を制した。

猛打から脱却して確実性と多彩な攻めを身に付けてきた。



「バスター打法」で練習に取り組む津田選手

個人のレベル

全体的なレベルが下がっていることを痛感した。男子は昨年の大会で龍谷と三養基が同県決勝を演じたが、女子はベスト4進出も2001年以来遠ざかって左右する。高い能力、技術を持った選手が集まってチームを結成すれば、国体などでの好成績にもつながるはずだ。県全体の水準を押し上げてくれるような若い選手の台頭を期待したい。

この点で、今大会は1、2年に将来有望な好素材が目立った。彼女たちの来年以降の活躍が、非常に楽しみだ。（談）

援を送っていたという大石孝之主将は「玉竜旗には独特の雰囲気がある。特に決勝戦はすごい緊張感があった。自分たちもあんな舞台で試合をしたい」と力を込めた。

27日は午前8時から開

ーレ甲府と対戦。FW藤田祥史選手の2ゴールで2―1で勝ち越し、3位に浮上した。

前半、サガンはここ4試合負けなしと好調な甲府にサイドから攻め込まれるも、数人がかりでボ

【サガン鳥レ甲府】で応える

鳥栖・会遺族らが

鳥栖市で

月、福岡県

の会社員入

当時（三四）

つかった事

が二十六日

合開始前の

ティスタジ

決につなが

求めるビラ

警察庁は

人逮捕に結

供者に最大

払う公的懸

が、二月か

の情報提供

まっている

和俊さん

栖市や筑後